

「大学入試英語 4 技能評価ワーキンググループ」説明資料

一般社団法人 CIEE 国際教育交換協議会作成

1. 試験団体における試験対策問題集作成の基本的な考え方

＜確認の観点＞

- ・問題集に掲載する問題と実際に出題する問題との関係性はどのようなものか
(基本的な考え方や同一問題又は類似問題出題の考え方など)
- ・英語力が向上していないのに点数が取れるような対策となっていないか

ETS は、ウェブ上および印刷物の形式で様々なテスト対策教材・学習ツールを提供しています。全ての受験者が等しく利用できる様、多くの教材を無料の自己学習教材として提供しています。ETS が提供している教材に使用している問題は、その多くが実際に過去の TOEFL iBT テストで出題された過去問題であり、これらの問題が将来公式テストに利用されることはありません。

ETS としては、受験者にとってテストを理解するための最適な方法は、過去問題を利用し学習することであると考えています。学習者がテストの形式を知り、テストがカバーする内容の理解を深め、テスト日に受験者が感じる不安を減らし、自信を持ってテストに臨めるよう、過去問を用いた教材を提供しています

また TOEFL iBT テストは、アカデミックな場面で実際のコミュニケーションに必要な本物の英語力を測るテストであるので、付け焼刃の詰め込み学習や小手先のテクニックでスコアが取れません。したがって TOEFL テストでは良いスコアだけれど、実際の英語力はスコアに見合わないということは無いと考えております。

なお、ETS では、テストの妥当性(Validity)/受験者の英語力を正しく測れるテストであるのか」ということに関して、多くの研究レポートを発表しております。

(参照: <https://www.ets.org/toefl/research/topics/validity/>)

2. 問題漏洩などの不正を疑われないために注意して取り組んでいること

＜確認の観点＞

- ・どのような漏洩対策を行っているか
- ・関係規定はあるか

ETS は、長年にわたり非常に厳重な情報セキュリティ対策をとっています。昨今の技術が変化する中、テストのセキュリティが 100%安全であると断言できる団体はないと思いますが、ETS としてはセキュリティを非常に重視し、国際基準に基づいた非常に高い水準のもと、データとアクセスの管理を行っています。テスト問題や受験者の情報などあらゆる情報保護のフレームワークや、団体の情報保護ポリシーは、国際基準 ISO27000 をベースとしており、すべての物的情報資産および電子情報資産の機密性、プライバシー、完全性や可用性を保持しています。ETS に所属する者は、毎年団体情報保護ポリシーにサインをし、情報セキュリティ情報保護啓発プログラムの一環である情報保護に関する研修を受けなければなりません。ETS では社内規定として、テンプスタッフやコンサルタント、サードパーティーも含め、当ポリシーや情報セキュリティ管理システムを厳重に順守することを定めています。

以上